週刊「中国・アジア」ダイジェスト

2011.03.07～03.11

記事の詳細は、情報検索サービス『キジサク』でご覧になれます

＊記事は東京発行・最終版

CHINA

3月7日（月）

■上海―東京を一貫輸送
日通／ＲＯＲＯ船＋内航船

日本通運は、高速ＲＯＲＯ船（運送用車両をそのまま積載）による上海―博多間と、内航船で博多―東京間の輸送による上海発の一貫輸送「イーウィング」を始める。東京港から40キロメートル圏。（17面）

3月8日（火）

■前原外相辞任、影響なし
中国外相／良好な関係を維持

中国の楊潔篪外相は、人民大会堂で記者会見し、前原誠司外相の辞任について「後任が誰であろうと、日本の外相と良好な関係を維持したい」。外相交代が関係に影響を及ぼさない認識。（時事＝３面）

■成都市の都市設計をコンサル
三菱地所設計／金融センター

三菱地所設計は、四川省成都市の「金融本部業務区」の都市設計コンサルタント業務を受注した。成都市郊外の500ヘクタールの土地に延べ床面積1000万平方メートル超の金融センターを開発する。（３面）

■中国工場の金型を内製化
アルファ／製造原価３割減

アルファは、広州の生産拠点内で自動車用キーセット、ドアハンドルなどの部品製造に使う金型の内製化を進める。工場内に金型製造用のＭＣなどを導入。部品の製造原価を３割削減する。（５面）

中国の全国人民代表大会（全人代）は、第12次５カ年計画要綱を承認し14日に閉幕する（ブルームバーグ）

■現地人社長の登用を拡大
ニフコ／中国など

ニフコは、自動車部品事業部門で、現地社員を社長に登用する。中国、スペインの両子会社で実施。これまでも英国、韓国、シンガポールなどの海外法人で現地人社長を登用してきた。（５面）

■クボタ、水処理で参入
現地合弁２社設立

クボタは、中国で新会社を設立し、水処理市場に本格参入する。４月に現地合弁と独資により、水処理プラントのエンジニアリングをそれぞれ手がける二つの会社を設立する。（11面）

■ＹＤＫ、中国で増産体制
半導体・液晶の製造・検査装置部品

ワイ・デー・ケー（ＹＤＫ）は、中国の現地法人の工場の増産体制を整えた。半導体、液晶の製造・検査装置部品などの受注増を想定し、クリーンルームや大型加工機の導入、増員で対応。（27面）

3月9日（水）

■新車販売、２年ぶりマイナス
２月／0.4%減88万台

中国英字紙チャイナ・デーリーによると、中国乗用車協会は、２月の中国乗用車新車販売が88万27台と前年同月比0.4%減少したことを公表。前年比でマイナスは約２年ぶり。（時事＝５面）

■中国生産拠点で生態系影響調査
富士ゼロックス／影響なし

富士ゼロックスは、中国の生産拠点で生態系への影響を調査。上海、深圳、蘇州の中国全拠点で、取排水や化学物質の管理状況、事業所周辺の動植物など。結果、生態系に悪影響はなし。（14面）

■浄水装置で中国進出
ウェルシィ／上海に事務所

ウェルシィは、中国市場に進出する。５月に初の海外拠点として、上海市に事務所を開設する。地下水や工場用水の膜処理による浄化システムを売り込む。中国や中東などの新興国に照準。（27面）

■関西金網、工場を拡張
昆山市／コンベヤーベルト

関西金網は、昆山市のコンベヤーベルト製造の現地法人の増設工事に着手した。日本・台湾系進出企業や中国企業向けの需要増加に対応する。平屋建て工場を２階建てに改造、拡張する。（27面）

3月10日（木）

■日中、初の「流通対話」
コンビニなどテーマ／30・31日、北京

経済産業省は30、31の両日、北京市内で初の「日中流通対話」を開く。中国の関心が深いコンビニエンスストアと中間流通サービスの二つがテーマ。局長級と官民代表の２カテゴリー。（２面）

■パルタック、中国進出
日本製化粧品・健康食品を輸出

パルタックは、中国で輸入化粧品などの卸売業を展開する上海長發豊源日化用品と業務提携する。パルタックが日本製化粧品、日用品、健康食品を中国に輸出、長發豊源が販売する。（３面）

■三菱電機、自動車機器の新工場
電動パワステ部品・オーディオ

三菱電機は、常熟市に自動車機器の工場を新設する。2012年春から電動パワーステアリング用部品やカーオーディオなどを生産する。日系だけでなく地場メーカーへの採用を狙う。（８面）

3月11日（金）

■ディスコ、３都市に新拠点
北京・深圳・西安／中国８拠点体制

ディスコは、中国に切断装置（ダイサー）などの精密加工装置の販売・保守サポート拠点を新設した。北京、深圳、西安の３都市に開設。既存の上海などと合わせ中国８拠点体制に。（３面）

■アルフレッサ、ヘルスケア拡大
伊藤忠・遼寧成大と提携

アルフレッサＨＤは、伊藤忠商事、中国の遼寧成大と包括的業務提携に関する基本合意書を締結した。３社の強みや経験を生かし、中国のヘルスケア市場でビジネス拡大を図る。（３面）

■混乱－中国のナイロン樹脂産業
ＣＰＬにアンチダンピング判定

中国のナイロン樹脂産業が混乱している。中国商務部は１月24日、欧米から輸入のナイロン樹脂原料ＣＰＬにアンチダンピング一次判定。その影響がナイロン樹脂や繊維メーカーに。（11面）

■生の本マグロ、中国で販売
月約２トン＝40尾／大連に空輸

双日は、子会社の双日ツナファーム鷹島で養殖している本マグロ（クロマグロ）を中国で販売する。福岡空港から中国の大連空港に生のまま空輸。初年度は月約２トン（約40尾）を販売。（15面）

TELOP

■鶴見製作所、国防関連企業と提携
水処理関連／合弁設立（８日６面）

■日油、上海に輸入販社
電子・食品・エネ分野（10日10面）

■中国・浙江医薬と合弁
米メディシノバ（11日15面）

● ひと

高級ブラジャー投入

ワコールＨＤ社長の塚本能交（よしかた）さんは「中国の売り上げは伸びているが絶対額が小さく、まだまだ拡大の余地がある。四川省など内陸部中心に出店を強化」する方針。また「主に4000円のブラジャーを展開しているが、富裕層が多く、高価な製品でも売れる。高級ブランドを投入する」。（11日＝15面）

ASIA

3月7日（月）

■インドネシア、新たな輸出拠点
自動車メーカー／低価格車の生産増強

自動車メーカー各社が、インドネシアを新たな輸出拠点に位置付ける動きが広がる。日野自動車は７万7000台に倍増。ダイハツ工業は200億円を投じ新工場。安価で良質な労働力が背景。（１面）

■車部品、新興国に開発拠点
現地ニーズに迅速対応

自動車部品メーカーが、中国など新興国に開発拠点を構える動きが広がる。ファルテックは、中国拠点に開発部門。ショーワはタイに２輪用緩衝器の開発センター。現地ニーズに迅速対応。（10面）

新興国で開発体制を構築・強化する自動車部品メーカー

デンソー	11年末からインド、ブラジルにカーエアコンなどの開発拠点設置
タチエス	中国子会社で、12年までにシート関連の設計試作人員を約４倍の100人に
河西工業	中国・上海に内装部品の設計開発拠点を設置
アドヴィックス	ブレーキシステムの開発・販売会社を中国・江蘇省に設立

■ヤンマー、タイで増産
小型ディーゼル／倍増、2000台

ヤンマーはタイ合弁子会社で、産業用小型ディーゼルエンジンの増産を始めた。１、２月は月産倍増の約2000台を生産。手押し式耕運機用など需要が回復。３月以降も継続。（11面）

■インド工科大に開発拠点
サムコ／ＭＥＭＳ・半導体レーザー

サムコは、インドにＭＥＭＳや半導体レーザー向け製造装置の研究開発拠点を秋に開設する。インド工科大学などを候補に大学内に設置する。大学教員らと連携して現地仕様の装置を開発。（12面）

■映画制作者の育成拠点
ソニー／インド映画制作学校内

ソニーは、インドに映画などのコンテンツ制作者向けのトレーニング施設を開設した。映画制作学校の既存施設内に設置。ハイビジョンデジタルや３Ｄコンテンツ制作用機材を無償提供。（12面）

■樹脂混練、インド工場が稼働
大日精化・丸紅

大日精化工業は、インドで丸紅との共同出資会社が運営する樹脂混練（コンパウンド）工場を稼働させた。インドへの工場設置は初めてで、海外コンパウンド拠点は９拠点目。（14面）

■インド人の採用支援
サン・アンド・サンズ／大学視察

サン・アンド・サンズアドバイザーズは、インド人を採用する日本企業の支援に乗り出す。国際ビジネスに通用する人材の獲得を目指す５社とインド工科大などを訪問。就職課とマッチング。（22面）

3月8日（火）

■金型、海外進出は販売最優先
まずはアジア／横田副理事長

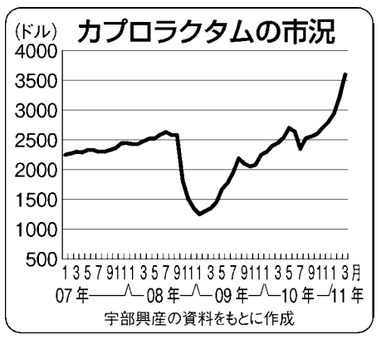
アジア金型産業フォーラムの横田悦二郎副理事長は、講演で「（金型企業で海外進出は）販売を最優先すべき。まず距離的に近いアジアから始めたい。インドネシアが狙い目だ」と述べた。（４面）

■新明和、インド合弁を解消
特装車製造／完全子会社に

新明和工業は、インドの特装車メーカーであるカイラッシュとの合弁契約を解消。新明和の完全子会社にする。合弁解消を機にインド市場での生産・販売戦略を見直す。（５面）

■樹脂原料、最高値3600ドル
宇部興産／カプロラクタム

宇部興産は、ナイロン樹脂などの原料となるカプロラクタムの３月のアジア向け契約価格を過去最高の１トン＝3600ドルで打ち出した。前月比同350ドル高い。今後も高騰し続けそうだ。（10面）



3月9日（水）

■ヤンマー、タイで農機生産拡大
先行クボタを追撃

ヤンマーは、タイで農業機械の現地生産を拡大する。合弁子会社が２月にトラクターの組み立てを開始、耕運機とコンバインも生産する。東南アではクボタが先行し、中国勢が追い上げる。（６面）

タイ工場で生産を始めたトラクター（ヤンマー）

■サンアロイ、タイで増産
金型用超硬合金／年35トン体制

サンアロイ工業は、７月からタイで耐摩耗用超硬合金を増産する。自動車関連向けの冷間鍛造用から半導体向けの順送金型用へと需要が拡大。２億円投資。生産能力を75%拡大、年35トン。（13面）

■台湾研と新素材開発で連携
日華化学／天然素材の機能化

日華化学は、台湾・紡績産業綜合研究所と新素材開発に関する包括的研究交流の覚書に調印。台湾政府の産業支援制度を活用。天然素材など環境に配慮した素材の機能化を開発する。（13面）

■ベトナムで即席めん製販
日清食品ＨＤ／アジア強化

日清食品ＨＤは、ベトナムに即席めんを製造・販売する100%子会社を設立する。資本金は約34億円。タイ子会社の増資や社内でのアジア戦略本部の新設するなど、アジア戦略を強化。（19面）

■高速海上輸送、アジア10カ所で
米ＵＰＳ／上海・釜山など

米ＵＰＳは、日本で始めた高速海上輸送サービスを中国・上海や韓国・釜山などアジア10カ所で開始する。アジア―米国を結ぶサービスで、航空機と海上輸送の中間に位置する速さ。（19面）

米ＵＰＳ北アジア地区プレジデントのキューサーン氏㊧

■ベトナム国営資源会社と協力
みずほコーポ銀／インフラ輸出支援

みずほコーポレート銀行は、ベトナム国営の石炭鉱産グループと業務協力協定を結び、ベトナムでの事業展開を加速。日本のインフラ輸出を後押し。昨年、ペトロベトナムとは協定を締結。（21面）

■インド輸銀と調印
国際協力銀行／サムライ債保証

国際協力銀行は、インド輸出入銀行が日本で発行する円建て外債（サムライ債）の保証について調印。総額200億円の私募債形式の円建て債券。ＪＢＩＣは元本全額や利息の一部を保証。（21面）

■説明書、タイ語に翻訳
農機など各種機器／あかがね

あかがねは、日本製品のメンテナンス用マニュアルをタイ語に翻訳する事業を始めた。従来の中国語に加え、タイ語も手がけることにした。農機をはじめとした各種機器類が対象。（27面）

■鋳造品の生産能力15倍
イトコー／インドネシア工場

イトコーは、インドネシア工場でロストワックス鋳造法による製品の生産能力を15倍以上に引き上げる。現地市場への供給と同時に国内にも輸入し、自動車部品などの需要に応える。（27面）

■環境技術で世界遺産守れ
市川表面処理協組／越から視察団

世界遺産の保全に日本の環境技術を生かせ―。ベトナムのハロン湾の環境保全プロジェクトのメンバーが、市川表面処理協同組合などを視察。東京湾に流す排水の処理の説明を受けた。（30面）

3月10日（木）

■台湾の都市交通システム受注
川重／車両など295億円

川崎重工業は、仏アルストムと台湾のＣＴＣＩと、台中市都市交通システムを受注した。受注額は295億円。車両36両、信号、受変電、自動改札など含めた車両基地設備を一括供給する。（３面）

■フィリピンでの金型設計強化
日本デザインエンジ／ダイ精研と連携

日本デザインエンジニアリングは、ダイ精研と連携してフィリピンでの金型設計受託事業を強化する。設計から製造、部品加工までの体制を整えて短納期とコスト削減を実現する。（６面）

ビジョンを発表する豊田章男社長（９日）

■トヨタ、世界販売1000万台
新興国・環境車に照準

トヨタ自動車は、中長期の経営方針を公表した。新興国と環境車を成長の柱に、2015年にグループ世界販売1000万台を目指す。新興国で現地生産車を拡充、新興国50%（10年40%）とする。（１面）

■紙幣印刷機に活路
小森コーポ／新興国で攻勢

小森コーポレーションは、紙幣を製造する特殊印刷機で、新興国に攻勢。フィリピン中央銀行から紙幣印刷設備を約34億円で受注。オフセット印刷機の内覧会をベトナムなど９カ国で開催。（７面）

■海外プロ遂行能力強化で新組織
千代田化工建設／要員を最適に

千代田化工建設は、海外プロジェクトの遂行能力強化に向けた新組織を設立する。地域ごとに要員を最適に割り当てられる体制を構築。地域に特化して「アジア推進室」などを設立する。（７面）

■電子教科書、インドで実験授業
教師不足解消／遠隔授業にも対応

シャープは、インドで電子教科書を使った授業を実証実験。総務省プロに参加。インド工科大学ハイデラバード校で月末まで。インドでの教師不足解消などを目的に遠隔授業にも対応。（８面）

■ＩＨＩ、線材コイル倉庫を受注
台湾の高炉から／最大級

ＩＨＩは、台湾の高炉メーカー、中国鋼鉄から線材コイル用の自動倉庫を受注した。保管能力は１万5000パレットと、日本国内の線材コイル倉庫と比べても最大級の規模。（10面）

■紙オムツ用不織布製造会社
旭化成せんい／タイ、年産２万トン

旭化成せんいは、タイで紙オムツ用不織布の製造販売会社を設立する。約50億円投資、サハ工業団地内に年２万トン能力の製造設備を建設する。成長するアジア市場を取り込む。（10面）

■株システム、アジア展開を加速
東証／「アローヘッド」

東京証券取引所が、株式売買システム「アローヘッド」のアジア展開を加速。マレーシア証取の入札に参加。システム導入を視野に、ベトナム・ハノイ証取と協定。東南アジアに拡販。（17面）

■群馬県、東南ア進出を支援
繊維・衣料など地場産業

群馬県は、繊維・衣料など地場産業を対象に、東南アジアへの販路開拓を支援する。これまで中国に関するセミナーや個別相談会を開催。今後は東南アジア中間層の消費動向を対象に。（26面）

■環境改善手法－アジアへ伝道
日本の産業界が確立

日本の産業界が確立した環境改善手法をアジアに広げる動きが活発に。マレーシアでは、モノづくりの環境負荷低減に役立つマテリアルフローコスト会計の導入支援が進む。（深層断面＝28面）

3月11日（金）

■ベトナムの省庁を訪問
日ＡＳＥＡＮ官民協議会

東南アジア諸国へのＩＣＴの展開を目指す「日ＡＳＥＡＮ官民協議会」は、ベトナムの科学技術省などを訪問。メンバーのＮＴＴデータと三菱電機、日本無線が防災システムなどを紹介。（３面）

■イーグル工業、インドで生産
メカニカルシール年150万個

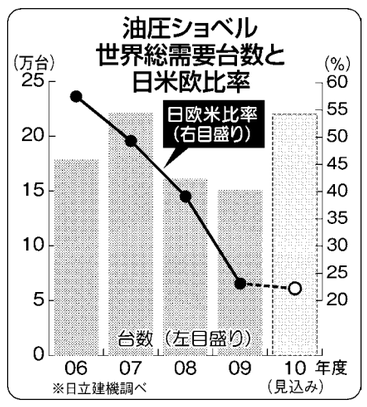
イーグル工業は、４月にもインドで自動車部品の生産に乗り出す。産機部品向け工場に、車部品用の生産ライン。メカニカルシールを年間100万―150万個。スズキの現地法人などに供給。（５面）

■マルイ工業、タイ工場増強
三価クロムメッキ部品

マルイ工業は、タイ工場に樹脂メッキラインを増設し、三価クロムメッキ部品の生産を始める。約５億4000万円投資。２輪、４輪車のエンブレムや外装部品。国内や周辺国、欧米向け。（５面）

■新興国に部品調達網
国内建機大手／基幹部品は日本

国内建設機械大手が新興国で部品調達網の整備に乗り出している。基幹部品の生産は日本に残すが、ほかの部品調達は建機組立工場のある中国などで調達し、原価低減につなげる。（７面）



■ＪＦＥスチール、越印に新設
海外事務所17カ所体制

ＪＦＥスチールは、ベトナムのホーチミンとＵＡＥドバイ、インドのムンバイに海外事務所を設置する。海外事務所は計17カ所。進出先の提携メーカーとの連携強化や顧客対応強化が目的。（11面）

■電線の地下化、台湾に照準
前田建設

前田建設工業は、台湾で現地電力会社の電力ケーブル地下工事の受注に取り組む。台湾は総事業費約11兆2000億円の長期公共事業を推進。電力会社が都市の地下利用を本格化する。（13面）

台湾・台北中心部の再開発が活発化する

■キリン、ベトナム社を傘下に
11万店の流通網・製造設備を活用

キリンＨＤは、ベトナムの飲料会社インターフード（ＩＦＳ）を傘下に収めた。ＩＦＳが有する11万店以上の流通網、製造設備の活用などでベトナムでの飲料事業基盤を強化する。（15面）

■マレーシア大手証券と提携
岡三証券／イスラム金融の中心

岡三証券は、マレーシアの大手証券会社、ＯＳＫと業務提携する。マクロ経済や証券市場の情報交換や人材交流。投資商品の共同研究を共同展開。イスラム金融の中心として期待。（17面）

■茨城空港、５路線に拡大
開港１周年／搭乗率９割路線も

茨城空港が11日、開港１周年。韓国・アシアナ航空のソウル便のみでスタート。中国・春秋航空の上海便を加え５路線となった。アシアナ航空は平均搭乗率約７割、春秋航空は約９割だ。（26面）

TELOP

■タイのトラクター工場が完成
ヤンマー（７日11面）

■インド工場起工式
コベルコクレーン（７日11面）

■シンガポールの販売権移行
第一三共（７日17面）

● ひと

チャイナ・プラスワン

ミズノ社長の水野明人さんは、物流について「生産地からの出荷と配送を再構築する必要があり、今は大きな移行期」と語る。「まず製造拠点では中国一辺倒に近い現状が、東南アジアを含めた『チャイナ・プラスワン』へ移行する。主要市場である日米欧へ向けた効率的な出荷が課題になる」。（７日＝17面）

２年遅れている

「中小企業はもっと海外に出るべきだ」と主張するのは、十印（とおいん）社長の渡辺麻呂さん。翻訳とローカライズ事業を手がけており、グローバル化はチャンス。「日本は世界から２年遅れている」と指摘。「業界の国際会議で、日本は当社だけ。韓国や中国の企業が増えている」と歯がゆい思い。（９日＝30面）

鉄は熱いうちに打て

「グローバルな人材を早急に育てる必要がある」と強調するのは、黒崎播磨社長の浜本康男さん。「中国やインドなど、海外で新たな製鉄所が相次ぐ」ことに対応する。自身は「若い時にマンツーマンで指導を受け」英会話を身につけた。〝鉄は熱いうちに打て〟が功を奏した経験を、人材育成に生かす。（10日＝10面）

しっかりと意見交換

副大臣から急遽昇格した松本剛明外相は、19日からの日中韓外相会談の意気込みを「韓中ともに重要な国。直接会談するよい機会。しっかりと意見交換したい」また、中国との関係修復について「経済の結びつきが強く、隣接しているがゆえの課題がある。ガス田など懸案を一つずつ乗り越えたい」。（11日＝２面）